

友だちの中で落ち着いて学習や作業に取り組む子

橋 本 浩 之

1. 対象児のプロフィール

生徒名 ○ Y・S (女) 昭和47年9月4日生 (中学部3年、多動症候群)

○ IQ測定困難 (情緒不安定の為測定困難だが、小学校中学年程度の学力があり、軽度の精神発達遅滞であると思われる。国立療養所精神科へ毎週通院。)

○ 鳥取市立S小学校普通学級 (6年6月まで) —同K小学校特殊学級—同K中学校特殊学級 (2年まで) という就学歴を経て、本年度初め本校中学部3年に編入学

(1) 一般的特性

- 身辺自立が確立しておらず、身辺の処理全般に指示が必要。特に排尿の失敗が多い。
- こだわりが強く教師の指示に従って行動できない為、集団生活ができない。
- 落ち着きがなく、突然、自傷行為や友だちへの暴力がある。
- 身長147cm、体重59kgで肥満傾向にあるが、健康面での問題は特にない。

(2) 問題点と研究に取り上げた理由

Y子の精神発達遅滞の程度は、境界線、もしくは、軽度であると推測され、知的学習能力、作業能力とも、かなり高度である。しかしながら、情緒不安定の為、落ち着いて取り組めなかったり、対人関係がうまくいかなかったりして、Y子の持つ能力がほとんど発揮されてないばかりか身辺の処理さえ確立していない。精神的に落ち着いていれば、かなり高度な学習・作業が出来るため、上記のテーマを設定し、Y子が落ち着いて学校生活と取り組めるための研究を進めた。

(3) 家族構成とY子との関係

父 (44) 自営業……Y子に対し非常に厳しく、暴力で従わせようとする事が度々ある。

母 (41) // ……Y子に対し優しいが、暴力を受けるので多少こわがっている面がある。

妹 (11) 小学校5年生 } Y子に暴力を受けるが、Y子が父親におしおきを受ける時は、かばお
妹 (10) 小学校3年生 } うとする。母親のY子に対する優しい態度に多少不満を持っている。

2. 指導仮説と取り組みの構想

Y子の情緒不安定な状態を強め、問題行動を起こさせている背景として、次の2点が考えられる。

① Y子の頭の中に常にある「自分は悪い子なんだ」という意識。

② Y子に対する父親の異常なまでのきびしさ。

そこで、①・②の背景を考慮して、次のような指導方針をたてた。

- ① 担任や家族が、もう一度、レポート作りをし、Y子に対して頭ごなしに否定することをやめ、あたたかく接して、Y子の「自分は悪い子だ」という意識を取り除いてやる。
- ② 悪いことをするからしかられる→精神的に不安定になり、もっと悪いことをする、という悪循環を断ち切るため、危険な行為以外は、きびしくしからない。

そして、この指導方針に基づいて、実際に指導する場面として、次の場面を設定し、学校と家庭が連携しながら、研究との取り組みを進めていった。

学校で

Y子が集中して取り組める作業学習等により精神的安定をはかると共に、Y子を認める場面を作る。

・作業学習 ・はり絵 等

家庭で

規則正しい自律的な生活が出来るよう、一日の生活の中で、お手伝い等を多くさせ、Y子を認める場面を作る。(父親は厳しくしからない)

・布団しき ・風呂の準備 等

学校と家庭との連携

・毎日の生活ノートでの連絡を密にする。生活ノートで不十分な点は、電話や家庭訪問で補う。
(学校で指導している事項・重点・様子等を連絡し、家庭でも協力してもらう)

・生活ノート・訪問等により、父親に対しY子への態度を改めてもらうよう働きかける。

3. 指導実践例

(1) 作業学習を通じた指導

一日6時間の学習の内、毎日2時間を作業的学習の時間として設定し、Y子が落ち着いて作業と取り組めるよう配慮した。次に示すのが、作業学習の際の指導上の留意点である。

- 作業を強要しない。(Y子はよくトイレへ逃避するが、ある程度認める。)
- 教師と一対一での作業から始め、少しずつ、友だちの中で作業ができるようにしていく。
- できるだけ単純で、くり返しの多い作業をさせる。(Y子の好みそうな作業を準備する。)
- よく出来た時は十分賞賛するが、調子の悪い時は言葉かけを少なくする。

以上の事項に留意しながら、具体的には、次に示すような作業学習の指導を行った。そしてもちろん日によって波はあるものの、4月当初と比べ、次のような変容が見られた。

	農 園	木 工	被 服	陶 芸	調 理	軽 作 業
作業内容	・草とり 水やり ・種まき・収穫 ・石ひろい・施肥	・くぎ打ちの練習 ・のこぎりの使用 ・立て札等の製作	・ぞうきん縫い ・アイロンかけ ・袋づくり	・自由な製作	・おかし作り ・宿泊学習の際の調理	・紙工 ・バインダー組立て ・つり金入れ
年度当初の実態	草とりをほとんどしようとせず、農具舎に隠れていることが多い。わざと作物を抜こうとする。	少しくぎを打ってやれば続けて打てたが、わざと曲げて打ち、喜んでいった。	一対一の補助で少し縫えたが、10分間程しか続かず、トイレへ逃避することが多かった。	粘土をひねることを好み、時間一杯皆と一緒に居られたが、作品の製作はできなかった。	食べることは大好きで試食には参加するが調理には参加せず別の部屋に逃避していた。	一対一で補助につき、一個ずつ作業を渡してやれば、時間一杯取り組むことができた。

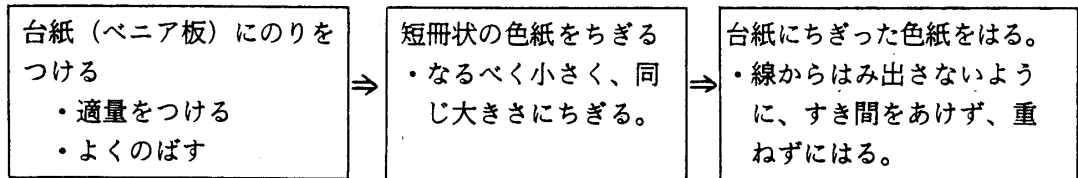
12月の実態	寒い日は農園に出たがらないが、指示に従い草とり、石ひろいの作業が30分程度集中して出来た。	くぎを指示に従い、まっすぐ打つようになり、立て札作りも意欲的にしようとした。	一対一の補助が必要だが、時間一杯なんとか取り組み、作品も作れた。	指示に従い、人形・灰皿等を作れた。教師の示範をまねての製作も出来た。	非常に意欲的に調理と取り組むようになり、初めての事でも自分から進んでやろうとした。	一人で作業が出来、「出来ました。もうないですか」と報告したり、進んで作業しようとした。
	4月当初の実態			12月の実態		
作業全般して	○指示に従って作業できず、一対一で補助しても時間一杯作業ができず、トイレ等へ逃避した。 ○作業が雑で、作品を最後まで作りあげることがなかった。			○ほとんど逃避することがなくなり、教師の指示に従って、友だちの中で、時間一杯作業できた。 ○作業の終わった報告ができ、次に何をしたらよいかを尋ねられるようになった。		

(2) はり絵の学習を通じた指導

二学期になり、Y子が以前のようにトイレへ逃避することが少なくなり、教師の一対一の補助を受けながらであれば、比較的長時間、集中して学習や作業に参加できた。そこで、教師の補助を少しずつ減らし、友だちと関わりながら、友だちの中で学習や作業が出来るように、共同製作のはり絵の学習と取り組むことにした。はり絵（共同製作）は、次の点で、Y子に友だちとの関わりを持ちながら学習させるのに最適であると考えた。

- 「紙をちぎって貼る」という作業の繰り返しであるため、落ち着いて取り組みやすい。
- 共同製作であるため、友だちの自然な働きかけが受けやすい。
- 協力して、少しずつ確実に出来あがる喜びを持ちやすい。

はり絵の主な作業の手順・注意事項は次の通りである。



そして、Y子が友だちの中で作業できるよう、次の事項を配慮し、指導した。

- ① クラスのリーダーであるE子に、はり絵の学習を進めさせ、Y子への働きかけもさせる。
- ② 2時間続けて学習する時には、途中にお茶の休憩を設け、なごやかな雰囲気をつくる。
- ③ Y子の「ここが貼りたい」「〇色で貼りたい」というわがままは、ある程度認める。

以上の事項を配慮しながらはり絵の学習を進める中で、Y子に次のような変容が見られた。



はり絵と取り組むY子

10月の実態	○色紙をすき間なく貼ることが出来ず、くっつけて貼るよう指示しても従えなかった。 ○色に非常にこだわり、特に髪の毛や土をピンクで貼りがった。 ○友だちから指示を受けると、興奮し、たたいたり、学習に取り組めなくなったりしたが、トイレへの逃避はなかった。
--------	--

12
月
の
実
態

- 5回目くらいの学習から、すき間を詰めて貼れだした。「上手だね」とほめると、「Y子ちゃんは上手だなあ」と、大変うれしそうにし、指示にも従えだした。
- 色へのこだわりが多少なくなり、指示に従って、ふさわしい色で貼れだした。
- 友だちの指示も素直に聞き入れ、友だちの働きかけで作業に取り組みだしたが、自分から友だちへは、働きかけない。

(3) 家庭との連携について

Y子が「友だちの中で落ち着いて学習や作業に取り組む」ための取り組みは、Y子の全生活の中で学校と家庭とが共通理解の下に進めていかねばならないので、家庭との連携は絶えずはかるようにした。

その重点と配慮事項は次に示す通りである。

- ① 危険な行為以外は、きびしくしからない。
 - 学校での問題行動をそのまま生活ノートに記述すると、帰宅後、父親のおしおきがある為、Y子が下校したがる。そこで、問題行動をあまり書かず、その間父親と話し合い、父親の態度の変容を待った。
 - ② お手伝いを決め、責任を持って毎日させる。
 - Y子は作業能力は高いので、ほとんどのお手伝いが可能である。お手伝いをさせることで家族との望ましい関係を育て、Y子の「自分は悪い子だ」という意識を取り除いてやる。
- 以上の重点事項を主に生活ノートで連絡をとりながら指導していったが、①については、なかなか効果があがらなかった。以下、生活ノートの記述を2、3あげてみる。

㊦ 母親の記述より

ここ2、3日前から、家で子供が変なことを何度も口走る時に、父親がそれを止めさせようと、力づく(暴力的)に出ます。子供も泣きわめく状態です。私はその時は、どうしても子供をかばうし、妹達も「お姉ちゃんがかわいそう、お父さん、やめんさい」等と言っています。ふだんは主人ともよく話し合っていますし、良いのですが、この時ばかりは、私の態度とくい違っていて本当に困ってしまいます。(6月5日)

㊧ Y子の日記より(「父の日」の日記)

2、3校時は、美術の時間でした。その時間は、お父さんのプレゼントを作りました。おり紙折ったり、もよう作ったり、絵を描いたり、字を書いて、お父さんに出しました。「私もいい子になるから、お父さん、あんまりおこらんようにして下さい」と書きました。早くお父さんがやさしくなってほしいです。それには、いい子にならないけません。お父さんもがんばって暴力団のおにから、やさしいお父さんになって下さい。さようなら。今の私のお父さんは、お父さんではありません。

㊨ 母親と担任とのやりとりより

母親より……今晚も主人に子供がおしおきをされました。子供の行動についてですが、やめさせようとする一心でした事なのですが、あまりにも行き過ぎのようです。本当にどうしてよいかわかりません。(11月1日)

担任より……Y子さんには、確かに問題と言える行動(癖)がありますが、それによって精神的安定が保て、学習や仕事に落ち着いて取り組めるのなら、ある程度認めてもいいのではないのでしょうか?Y子さんにとって、大事なのは、癖をなくすことよりも、今はむしろ、学習に参加したり、仕事をしたりして、様々なことを経験し、知識や生活能力をつけることだと思うのですが……。(11月2日)

母親より……先日は、子供のことで色々ご心配をおかけしました。本当に先生のおっしゃる通りだと思います。主人にもじっくりと読んでもらいました。親の私達も、もっとゆったりとした気持ちで子供に接して行かねばならないのですね。色々アドバイスして頂きありがとうございます。(11月3日)

家庭でのお手伝いについては、右の反省表が示すように、毎日決められた事をする事ができた。また、この他にも、調理等、お母さんが様々な手伝いをY子にさせて下さるようになり、充実した家庭生活が送れるようになってきている。

反省	自分	母親
おっぱい(く)	◎	○
牛乳びん洗	◎	◎
お風呂の用意をする	○	○
食卓の用意をする	○	○

- ◎ よくできた
- できた
- △ あまりできなかった
- X できなかった

家庭との連携については、このように少しずつではあるが、連携が密になり、共通理解の下にY子に接することが出来たように思う。

父親の態度については、なかなかY子への暴力をなくすことが出来ないが、話し合う内に、以前は「先生は甘い」と批判されていたが、今は、「手を出しちゃいけないと思うんですが、どうしても出てしまうんです」と自ら反省された。少しずつ父親のY子への態度を変えて来ているのではないと思う。

(4) 生活全般におけるY子の変容(問題行動を中心に)

前述のような研究との取り組みの他にも、Y子の生活全般の中で、2で記した指導方針に基づき、Y子が落ち着いて生活できるよう配慮した。その結果、次のような変容が見られた。

月	トイレへ逃避の時間 1(時間) 2	排せつの失敗 (回数)	癖・こだわり	自傷行為	その他	
4	1	4		○鼻をたたく・髪をむしる	○暴力団・やくざ・不良に異常な関心を示す。 ○岡山・友だちの家に行きたがり、下校のバスに乗らない。	
5	2	6		○手の甲をたたく ↓ ○おしりの穴をつねる ↓ ○のどをたたく		
6	3	10	○「ダッ」「グルグル」と大きな声を出す。			
7	4	12	○「やりなおし」と言い足ぶみをする。			
9	5	9	↓ ○教室のかべにもたれる。			
10	6	2	○のどを水で洗う。			
11	7	2	↓ ○鼻を何度もかむ。	○のどをひっかく、殺虫スプレーをかける		
12	8	5				
(1日あたり)						
7月	「もうトイレにかくれんようにする」と言い、それ以来、減少する。	調子の悪い時はもれるまでがまんし便所に行かせても排尿せず出てくる	新しい癖が生じると前の癖が消える。癖の程度が軽くなり短期間で消えるようになった。	自傷行為の回数はなかり減ってきた。癖を禁止すると自傷行為をする。		

4. 考察と反省

Y子の持つ高度な知的学習能力や作業技能が生活の中で「生きて働く力」として発揮されるようY子が落ち着いて学習や作業と取り組めるための取り組みを行ってきた。担任とのレポート作りから始めて、徐々に友だちの中で、友だちと関わりながらY子の実力が出せだしたように思う。まだまだ、配慮なしに友だちの中で生活できる段階には至っておらず、不十分ではあるが、年度当初と比べると、かなり問題点が改善されたと言える。

家庭との連携についても、ほぼ共通理解の下に、Y子に接することが出来たように思う。しかしながら父親のY子に対する暴力は、あまり減少せず、父親のおしおきを受けた翌日は大変調子が悪いことから考えても、ぜひ、改善しなければならない問題だと考える。

5. 今後の課題

今後も大筋として、本研究の手だてを継続していきたいと考えるが、中でも、Y子に対する父親の態度を変えてもらう取り組みに力を入れたい。そのため、より一層、学校と家庭との連携を密にし、信頼関係を作って、共通した見解の下に、Y子の指導にあたるまで話し合いを進めていきたいと思う。

また、Y子は、身辺処理の技能は不十分ながら身につけていても、指示がなければしようとせず、基本的な生活習慣が確立していない。そこで、今後は情緒の安定をはかると共に、基本的な生活習慣の確立を目指し、リズムのある自律的な生活が出来るところまで、指導していきたいと考える。